



『日本一の幸福実感県・高知』の実現のため「環境立県こうち」を目指す
～環境にやさしいライフスタイルによるまちづくりの提言～

提 言

2016年7月

土佐経済同友会

目次

環境にやさしいライフスタイルによるまちづくりの提言	1
---------------------------	---

【提言作成に関する補足資料】

1. はじめに	2
2. 提言策定にいたった考え	3
3. 総括	4

【参考事例編】

提言の参考事例	5
---------	---

【事例調査編】

事例調査 1. ポートランドに学ぶ、ライフスタイル型環境まちづくり

1-1. ポートランド市について	11
1-2. 「全米一住みやすい」といわれるまでになったポートランドの歴史	12
1-3. 思い切った政策に踏み切れた、ポートランドの市民性	12
1-4. 住民の生活目線で考えられたまちづくり	13
1-5. 住みやすいまちづくりが生んだ“経済の発展”と“環境都市ブランド”	14
1-6. 総括	14

事例調査 2. 国内外の環境まちづくり事例

2-1. 国内の先進事例	15
2-2. 海外の先進事例	17
2-3. 事例の分析結果	19

参考文献・出典一覧

【資料編】

1. メンバー一覧	21
2. 活動記録（委員会開催目録）	21

環境にやさしいライフスタイルによるまちづくりの提言

代表幹事 吉澤文治郎

代表幹事 弥勒 美彦

特別幹事 小川 雅弘

環境問題委員会委員長 高野 一郎

今回我々は、これまでの活動や調査結果を元に、以下の通り、**3つの提言**を行います。

提言 1

環境に関連する指標の向上に取り組むとともに、新たな高知の 魅力としての指標を情報発信し、「環境立県こうち」を目指す

環境に関連する指標の向上は、ポートランドの事例（※事例調査編、P.12～参照）に学ぶように、高知県を環境面からブランディングし「環境立県こうち」として県内外にアピールすることで、高知県の新たな魅力を発信することに繋がると考えます。

また、その魅力を幅広く発信していくことで、他県との優位性を明確にすることができ、高知県民総幸福度（GKH）の向上にも繋がると考えます。

この提言により、高知県に対する注目度の向上やイメージアップ、また、ブランドの確立に繋げることにより、流入移住人口の増加や、観光客などの交流人口の増加などが見込めると考えます。

提言 2

環境に配慮したまちづくりのための新ビジネスに、民間企業が参 画しやすいように、行政がサポートする

市民生活の一部である「移動」とリンクするビジネスがあれば、環境に関する継続的な活動を促すとともに、さらなる効果を生む原動力になると考えます。

この提言により、関連事業者のイメージアップ・収益増加、新たなニーズに対応した技術革新や、ビジネスモデルの発生、ベンチャー企業の育成、県外企業誘致、雇用・移住促進、などの効果が見込めると同時に、行政がサポートする事で、「環境立県こうち」を県内外にアピールすることになると考えます。

提言 3

中心市街地への自動車乗り入れ制限など、将来的に市民生活 の一部となる環境活動に取り組む

この提言により、自転車利用率の向上や、歩行者に優しいインフラの整備、クリーンエネルギー利用率の向上などの効果が見込めるとともに、車道をマーケットとして開放する事により、新たな産業創出機会の増加も期待でき、中心市街地の活性化にも繋がると考えます。

提言作成に関する補足資料

1.はじめに

環境問題委員会では、2009年6月の提言『“日本一輝く田舎”＝“土佐的循環型社会づくり”』以後、エネルギーの自給について、検討を行ってまいりました。しかし、これといったエネルギー資源を持っていない高知県では、エネルギー自給促進は必要ではありますが、ソフト面だけでなくハード面での投資なども必要になり、長期的な視点で考えなければなりません。

その一方で、高知県は若年人口（特に、就学結婚出産適齢期）の流出・人口減少などの課題も抱えております。

我々環境問題委員会では、現在課題として挙がっている『就学結婚出産適齢期の若年人口の流出、人口減少』を環境問題から解決する糸口を探るために、参考事例の視察や調査など検討を進めてまいりました。

「環境立県こうち」を目指すという提言を基に、【高知県10年ビジョン】の目標である「日本一の幸福実感県・高知」を実現させるために、高知県の新しいブランド確立を図り、他県との優位性を明確にし、情報発信します。具体的には、今回提唱する環境活動に県民自らが自主的に取り組むことで、高知県民の幸福度や地元愛を高め「環境立県こうち」を目指します。

自然の豊かさや、食の豊かさ、人との交流度などの高知らしい幸福度を、高知県ならではの指標としてPRすることで、「日本一の幸福実感県・高知」を実現し、高知県の魅力を発信します。

今回、県民の環境に対する意識の向上を図り、県民自らが環境にやさしい活動を幼少より自主的に行うことで、高知県の豊かさの根源である自然を守ることができ『環境立県こうち』が確立するものと考えます。

同時に、『環境立県こうち』として国内外に広く周知される事により、移住先としての大きな選択理由になるとともに、ひいては出産・子育てに最も適した県として広く認知される事に繋がります。

その結果、平均年齢を下げ、出生率向上を図り、最終的には高知県の最重要課題である人口減少・若年人口流出問題解決の糸口となり、交流人口の拡大や企業誘致にも大きな切り札になると考えます。

2.提言策定にいたった考え方

世の中における環境活動は、“定量的”な目標を掲げ、“定量的”なアプローチを行うことが多くの事例で見られます。（例：環境のためにCO₂を10%削減しよう、等）

しかしながら、我々は、“環境のためにCO₂10%削減”という目標を立てたとしても、県民の積極的な環境活動は生まれないと考えます。

なぜなら、“環境のためにCO₂10%削減”という目標が一体どういうことなのか、自らのライフスタイルにおいてイメージできないからです。多くの人々はイメージできないことには取り組む必要がないと判断すると考えます。

では、“より住みやすいまちづくりのために自転車通勤・通学しましょう”ではどうでしょうか。この目標だと、“騒音削減”“事故の減少”“景観の確保”・・・等、自らのライフスタイルにおける効果が具体的にイメージしやすいのではないのでしょうか。

最初の環境活動のアプローチは「①定量的なアプローチによる定量的な目標の達成」ですが、後半のアプローチは「②定性的なアプローチによる定量的な目標の達成」と位置づけることができます。どちらも最終的には定量的な目標達成が成果としてあげられますが、今回我々が目標とする、県民が自ら自主的に環境活動に取り組むことを目指すには、具体的な量でなく、性質特性としての定性的アプローチが重要となると考えます。

定性的なアプローチ構築に関しては、ポートランドや海外・国内の参考事例を参考に学び、市民が環境によい活動を日常生活の一部としてごく当たり前にできるような意識づくりを念頭におき、構築します。

ここで、実効性の高い環境活動のポイントとしてあげられるのは、**「環境関連指標の向上」「環境活動とリンクしたニュービジネスの育成」「市民生活に直結した『移動』に対する環境活動」**にあると考えます。

上記のポイントを元に、将来的な文化資本構築を視野に入れた環境活動を提言しました。

（図1：提言イメージ図）



3.総括

近年、環境活動や環境に関わる考え方などは多く世に広まり、注目され、人々の環境に対する認知度は高まりつつあります。

しかしその反面、人々の環境に対する意識の高まりにはまだまだ個人差があり、環境活動への自主的な取り組み状況も満足できる状態にはありません。

そこで、我々土佐経済同友会は、“県民の環境に対する意識を向上させ、環境に優しい活動を自主的に行える”ようになることを目指し、以下の三つの提言を作成しました。

一つ目は、新たな高知県の魅力発信に繋がること。

二つ目は、民間企業も参画し、経済活動に繋がる事業であること。

三つ目は、将来、市民生活の一部となる環境活動であること。

我々は定量的な目標掲げるだけでは、県民の自主的な環境活動は生まれないと考え、まずは定性的な視点でのアプローチを行うことで環境活動を県民のライフスタイルに取り入れていきます。提言の活動を継続することにより、県民が高知県の環境の良さを実感でき、高知県への愛着も高まり、将来的には県民のライフスタイルを“環境にやさしいライフスタイル”へと移行させることを目指します。

“環境にやさしいライフスタイル”を県民に根付かせることで、高知県の魅力向上に繋がり、それが注目されることで流入人口の増加に結びつくことは、既に成功しているポートランドの事例を見ても明らかです。

今回視察したポートランドの流入人口の多くは都会で暮らしている結婚出産適齢期の若者たちです。彼らが実際移住を検討する際に重視するものは、“安心して住め、安心して子育てが出来る環境にやさしい街かどうか”ということです。ポートランドを全米一住みやすい街とまで言われるまでに発展させた、住民の多くが持つ環境保全に対する共有意識の高さが、移住を検討する者にとって魅力的な多くの指標獲得に繋がっているといえます。

高知県においても、県民の環境活動の継続によって環境に対する意識向上が実現でき、結果、「環境立県こうち」として、様々な指標とともに環境先進都市として注目されるようになれば、前述したポートランドのように、全国から移住希望者が集まり、課題である若年人口の流出や人口減少を解決する糸口となると考えます。

また、環境にやさしいまちになることで、県民が高知ならではの豊かさを実感でき、魅力的な指標の増加・向上によって高知県民総幸福度（GKH）の向上が見込まれ、「日本一の幸福実感県・高知」の実現に繋がるものと考えます。

しかしながら、これらは一朝一夕で成功するものではなく、ハード・ソフト面の補助や、県民の意識変革など長期的な視野で考えなければなりません。

まずは、提言の具体化に向けて、高知県全体として、『環境立県こうち』を目指せるような環境・場作りを環境問題委員会及び土佐経済同友会一丸となって取り組んでいきたいと考えます。

提言 1 の参考事例

参考事例① 愛媛県松山市の行政主体の指標発信の事例

愛媛県松山市副市長の名刺には以下の愛媛県のランキングが印刷されており、松山市の魅力を分かりやすい指標でアピールしています。

- ・主婦が幸せに暮らせる町ランキング 全国 5 位
- ・女性の一人旅に人気の温泉地ランキング 全国 1 位
- ・「街はことばのミュージアム」2013 年グッドデザイン賞 受賞
- ・行って良かった日本の城 2014 年 第 2 位
- ・防災士数日本一
- ・消防団員数日本一



更に、愛媛県ではイメージアップキャラクター「みきゃん」と愛媛の写真を組み合わせた「えひめ笑顔名刺・メッセージカード」デザインを作成し、愛媛県民に愛媛を全国・海外に PR するためのフォーマットを作成しています。

愛媛県の HP にデザインがアップロードされており、自由にダウンロードし編集が可能となっています。

(写真 1：えひめ笑顔名刺)

参考事例② 福岡県大川市の事例



福岡県大川市ではイラストレーターの浦野周平氏にデザインを依頼し、「大川市を知る 10 箇条」を作成しました。目を引くイラストと、他にはない視点から大川市の魅力を伝えています。ANA の機内誌「翼の王国」2015 年 12 月号にも掲載され、大川市の PR に繋がりました。

高知県においても、高知県の魅力的な指標をとりまとめ各自が自由に使用できるフォーマットを作成・配布し、知事や行政職員、民間企業などの名刺裏やパンフレット等に印刷・発信することで、高知県の魅力的な指標を効果的にアピールすることが出来ると考えます。

(写真 2：大川市を知る 10 箇条)

(表 1：高知の魅力的な指標一覧)

運動靴の支出金額	2014	1位
勤務医数	2010	1位
神社数	2009	1位
夫婦の幸福度ランキング(男性)	2014	1位
TSUTAYA店舗数	2013	1位
鉄道駅数	2005	1位
甲子園通産勝利数	2015	1位
喫茶店店舗数	2006	1位
地元ならではのおいしい食べ物が多かった	2014	1位
カツオ消費量	2008	1位
なす生産量	2013	1位
飲酒費用	2012	1位
森林率	2007	1位
病院数	2012	1位
看護師数	2008	1位
日本美肌グランプリ	2014	2位
高齢者数	2013	2位
ピーマン生産量	2013	2位
ビール消費量	2013	2位
日照時間	2010	2位
地元ならではの食・特産品に興味があったから	2014	3位
きゅうり生産量	2013	3位
徒歩・自転車通勤・通学率	2010	4位
現役医師数	2012	4位
魚がおいしいと思う都道府県ランキング	2012	5位
観光アクティベーション調査(特産、名産品)	2015	5位
観光アクティベーション調査(食文化)	2015	5位
ふるさと自慢	2010	5位
飲食店営業数	2008	5位
スーパーマーケット店舗数	2009	6位
天然記念物数	2015	6位
図書館数	2008	7位
魅力のある特産品やみやげ物が多かった	2014	7位
シニア世代に人気の観光スポットランキング	—	8位
行ってよかった日本の城ランキング2015	2015	8位
地元の人のホスピタリティを感じた	2014	8位

提言 2 の参考事例

参考事例① ペロタクシーの運行

ペロタクシー（velotaxi）の「velo」とはラテン語で「自転車」を意味する言葉で、直訳すると「自転車タクシー」となります。ドイツで開発され、1997 年に首都ベルリンで運行を開始し、2000 年のドイツ・ハノーヴァー万博や 2004 年のアテネオリンピックなどの大規模イベントでも運行されました。2002 年 5 月に開始した京都を皮切りに、年々運行地区は増加しています。

高知県では都道府県公安委員会規則において、一般道でのペロタクシーの運転者以外の乗車できませんが、規則を改正し収益モデルを確立できれば、高知市中心部での環境、観光両面において新たな公共交通の新サービスとして注目されたいと考えます。



（写真 3：ペロタクシー岩手）



（写真 4：ペロタクシー尾張旭）

参考事例② サイクルツアーの企画販売

台湾を代表する世界最大の自転車メーカーGIANT（ジャイアント）は、自転車の製造・販売にとどまらず、女性だけのライドイベントやビギナーが楽しく正しい乗り方を習得できるイベントを日常的に多く開催していることで有名です。

GIANT では、多くの人の自転車ツーリングへの夢を実現するための旅行会社「ジャイアント旅行社」を 2009 年 5 月に設立し、台湾内での自転車旅行を積極的に開拓しています。

15 人以上であれば当社が団体旅行を組み、個別プランでの自転車旅行サービスを提供しています。台湾居住者向けの台湾・海外自転車旅行、海外旅行客向けの台湾自転車旅行とサービス区分が別れており、それぞれにおいてきめ細かなサービスを提供しています。

高知県でも、香南市・芸西村・安芸市など土佐湾の海岸線を満喫できるコースや、四国カルスト・瓶ヶ森線など山々の大自然を満喫できるコースなどを設定し、初心者から上級者まで楽しめるサイクルツアーを企画販売することで、県内参加者においては日常生活の一部として自転車を活用する機運を高め、県外参加者においては、自然豊かな高知の環境・食・人とふれあうことで移住促進の一助になるものと考えます。



(写真 5 : 女性向けライドイベントでの集合写真)

参考事例③ オリジナル EV 開発

大阪 EV アクションプログラム内の「大阪産 EV 開発プロジェクト」では、EV および EV 関連技術開発に伴う市場調査や展示会出展への助成を行っています。

その中で、一回の充電で 550 キロ以上走行可能なオープンエア型クラシカルスポーツ EV の試作や牛車をイメージしたデザイン重視の量産型小型三輪 EV 「Meguru」、多くの車体形状に対応する超小型の 2 人乗り EV 用プラットフォームなどの開発が行われました。

高知県では、高知工科大学・民間企業・高知県工業技術センターが共同開発した 1 人乗り超小型電気自動車「MicroAERO」が開発され、東京ビッグサイトで開催された「スマートコミュニティ Japan2013」で展示されました。

国土交通省道路交通センサスによると、平成 22 年度の乗用車平均輸送人員は、1.30 人と乗用車の乗車定員を大きく下回る結果となりました。一方、自家用車の利便性が高い地方都市部においては通勤・通学、買い物等、日常生活に密着して使用されています。

よって一人乗り～二人乗りの小型 EV を開発・普及させるには、大都市より地方都市の方がより大きな効果を期待できます。

すでに高知県でも産学官連携での EV 開発が行われており、今後更なる性能向上と EV の利用環境の整備を行い、高知県民にとって高知県オリジナル EV が自家用車購入の選択肢の一つとして認知されれば、環境型まちづくりとリンクした新ビジネスを構築できると考えます。



(写真 6 : 小型三輪 EV 「Meguru」)



(写真 7 : 1 人乗り超小型 EV「MicroAERO」)

提言 3 の参考事例

参考事例① 沖縄国際通りトランジットモールの取り組み

国際通りでは、1 日に約 2 万台の自動車通過することによる慢性的な交通渋滞や、排気ガスによる店内商品の汚れ・騒音等の問題が発生していました。

そこで国際通り商店街が国土交通省道路局の社会実験にエントリーし、平成 13 年～平成 15 年にトランジットモール（※）の社会実験を実施しました。

結果は、二酸化窒素が通常の半分に減少し、基準値以上だった騒音も基準値以下となりました。更に来街者が通常の 1.4～1.9 倍に増加しました。

平成 19 年より本格導入に至り、毎週日曜日の 12 時～18 時のみの実施とし、トランジットモール内には小型バス 5 台の運行を行いました。また、歩行者優先区間はカラーコーンで歩車分離を行い、本線を交互に通行し、運行速度は 8 キロ以下で音楽を鳴らしながら走行しています。また、バスの補完交通としてペロタクシーを 5 台運行しており、歩行者の利便性向上に努めています。



（写真 8：沖縄国際通り商店街）

高知県においても休日やよさこい祭り期間中などのイベント日を中心に、中心市街地の自動車乗入れを制限することで、周辺住民の住環境の改善や歩行者に優しい環境整備が実現すると考えます。

※トランジットモール：北米都市において、自家用自動車の通行を制限し、バス、路面電車、LRT、タクシーなどの公共交通機関の進入・運行のみを許可した形態の歩行者道路（モール）を指す。

参考事例② 自転車利用促進に向けたイベント

大分県大分市は、平成 18 年 3 月に「大分市自転車利用基本計画」を策定し、環境に優しく、機動性が高い、健康増進に役立つ自転車の利用を促進することで、環境・健康・交通問題などの解決を目指す自転車を活かした特色あるまちづくりを実現するため、「バイシクルフレンドリータウン創造」事業に取り組んでいます。

その一環として、2014 年から始まった自転車の祭典「OITA サイクルフェス!!!」があります。街の中心部に専用コースを設定し、1 周 4 キロの「サイクルロードレース」、1 周 1.1 キロの「クリテリウム」をメイン競技として開催、全国トップクラスの選手の参加や人気漫画「弱虫ペダル」とコラボレーションした広報の効果もあり、2014 年は 3 日間で来場者が 5 万人を超え、人気を集めました。

高知県においても同様のサイクルイベントを中心市街地で開催し、参加者の体力にあったコースを設定するとともに、車の乗り入れも禁止することで、中心市街地における自転車利用が合理的かつ環境にもよいことを実感してもらい、ひいては自転車利用率向上に繋がると考えます。



(写真 9 : プロ選手と一緒にパレード)



(写真 10 : 2014 年開催の様子)

事例調査編

事例調査 1 ポートランドに学ぶ、ライフスタイル型の環境まちづくり

環境問題委員会では、今回、『環境立県、こうちを目指して』というテーマを掲げ、今年度活動してまいりました。特に我々が掲げるテーマにおいて参考にすべき事例として、環境先進都市として世界中から注目され、全米一環境に優しく、全米一移住流入人口が多い街として世界中から視察に訪れられているポートランドを実際に視察し、行政や経済人との意見交換を経て、『オレゴン州 ポートランドに学ぶ』をテーマに、2015年11月に、高知県民250名に参加頂き、オープン定例会を開催致しました。

1-1. ポートランド市について

ポートランド市は、アメリカの西海岸のオレゴン州にあるオレゴン州最大の都市で、人口は約58万人の都市です。気候も過ごしやすく、バラの栽培が盛んで、「ローズシティ」とも呼ばれています。



(写真11：ポートランド地図)

食文化に関しては、地ビールの生産が盛ん、ピノ・ノワールワインの産地、コーヒータウンとしても知られており、また、ファーマーズマーケットも盛んに行われており、ポートランド独自の食文化を築き上げています。

ポートランド周辺には、ナイキやアディダスなどの本社が集積しており、「スポーツ・メッカ」としても親しまれています。

(表2：ランキングで見るポートランド)

- ・ 全米で最も環境に優しい都市 1位 (2012年「Corporate Knights Magazine 誌」他)
- ・ 全米で最も持続可能(サステナビリティ)な都市 1位 (2011年「Census」)
- ・ 全米でも最も省エネ努力をしている都市 1位 (2013年「Business Facilities 誌」)
- ・ 全米で最も「Bike-Friendly」な都市 1位 (2012年「Bicycling」)
- ・ 自転車通勤する人の割合 1位 (2012年「US Census Bureau」)
- ・ アメリカ人の引っ越し先、転入率が最も高かった州 1位 (2013年「CNN Money」)
- ・ 1人当たりのオーガニックレストラン数が最も多い都市 1位 (2007年「Cooking Light」)
- ・ 全米で最も出産に適した都市 1位 (2008年「Fit Pregnancy 誌」)
- ・ 自動車無しでも住みやすい都市ランキング全米 2位 (2011年「24/7 Wall Street」)
- ・ 全米美食(グルメ)都市ランキング 2位 (2012年「CNBC」)
- ・ 全米グリーンテック/ロジック都市ランキング 3位 (2012年「Clean Edge」)
- ・ オレゴン州実質GDP成長率は3.9%で全米 3位 (2012年「US Bureau of Economic Analysis」)
- ・ 世界で最も住みやすい都市5選 (2012年 英・「ザ・ガーディアン 誌」)

1-2. 「全米一住みやすい」といわれるまでになったポートランドの歴史

全米一流入人口が高い都市として、年間約 13 万人、一日に換算すると約 350 人が移住して来ているポートランドの特徴として語られるのは“住みやすい、暮らしやすい街”であるといわれ、緑が多い・公共交通機関が発達している・車の交通量も少なく自転車や徒歩の住民にやさしい街など、数多くの魅力的なランキングを獲得しています。



(写真 12 : ポートランド市の風景)

近年、世界有数の環境先進都市として認識され、羨望のまなざしを浴びるポートランド市ですが、昔から環境先進都市だったわけではありません。

1970 年代以前のポートランドは、他の米国の都市と同様に、急激な都市化とモータリゼーションの進展により、都市機能の郊外化が加速していました。それに伴い、中心市街地は衰退し、空き地はほとんど駐車場と化し、都市部の大渋滞による深刻な大気汚染と、郊外の乱開発で自然破壊に悩まされていました。ここで立ち上がったのが、行政ではなく、ポートランド市民です。ポートランド市民は、他の都市より一歩早く“自然環境の保全”と“都市部と農村部のバランスある発展”を求めて思い切った「成長管理政策」の導入に踏み切りました。

1-3. 思い切った政策に踏み切れた、ポートランドの市民性

なぜ、そのような行動が市民の中から起きたのか、要因として考えられるのは、コミュニケーションが希薄となっている現状に嫌気が差した若者たちが自らポートランドに集まったことにあります。結果、ポートランドは、“政治やボランティアなどの様々な活動を通じて組織に参加できる街”とし注目され、自由と民主主義というストーリーが生まれ、今では住民の 80%以上もの人が移住者となっています。多様な人達が集まり、世代を超えた交流から生まれる“新しい価値観”がポートランドの魅力の核心になっていると考えられています。

「成長管理政策」や、ポートランドのまちづくりにおいて重要な位置を占めるポートランド市開発局（以下、PDC）主導による、都市計画の骨格「リージョン 2040」の導入など、様々な努力を経て、今のポートランドの姿があるといえます。

特に環境視点でポートランドの姿を見てみると、全米のほかの都市とはまったく異なった開発計画で行われていました。

1-4. 住民の生活目線で考えられた都市計画

ポートランドの街区は、全米のほかの都市と比べて半分ほどの長さで、道幅も 20m と狭い作りになっています。

＜表 3：ポートランドと他都市の比較＞

	1 ブロックの長さ	道路幅	両側の建物の高さ
ポートランド	61m	20m	建物の比率から 10m
他都市	122m	20m 以上	規則無し

また、1 階部分には店舗や飲食店、カフェなどが入っており、道行く人たちとのアイコンタクトも生まれやすい作りになっています。中心街は、東西 1.5km、南北 3.5km と、「徒歩 20 分の街」としてコンパクトシティ化に成功しています。



(写真 13：ポートランドのまちづくり～食・住・遊の融合～)

中心部への車の乗り入れは制限されており、公共交通機関も発達しているため、車の交通は驚くほどありません。土地利用と集約化を進めた結果、公共交通の利用は 5～10 倍、徒歩利用は 3 倍、車の移動・所有も半減したとされています。



(写真 14：緑の街づくり)

再開発にも力を入れており、例えば、中心市街地の駐車場を屋台オーナーにレンタルさせ、ストリートフードの人気を高め、地域に賑わいを取り戻した事例や、旧操車場跡地を再開発し活気を取り戻した事例など、土地を再活用し賑わいを取り戻す事業にも力を入れています。

1-5. 住みやすい街づくりが生んだ“経済の発展”と“環境都市ブランド”

このように、徒歩や自転車で楽しめるまちづくりを推進してきた結果、ポートランドにおける自然体験キャンペーンや街中に誘導する販促政策が功を奏し、この 20 年間の観光市場は倍増の成長を遂げています。

自然環境の良さが人気を呼び、前述したようにスポーツ・メッカとしても親しまれており、また、自転車通勤者の割合は 8%と全米平均の 8~10 倍を誇り、自転車オーダーメイドショップも市内に 20 以上を超え、サイクリングを愛する街として世界でも有数の都市として注目されています。コンパクトシティが進むにつれ、スポーツ・観光・サービス業が繁栄し、全米平均の 1.5%よりもはるかに高い 4.7%の成長率を誇っています。

1-6. 総括

以上、ポートランドの都市計画は、マーケティングとブランディングとは違う、自然を愛する市民の誇りの育成に力点を置いて取り組みを行っていることが分かりました。

今回提言する環境活動においても、参考になるポイントは多くありましたが、ポートランドの様々な魅力的なランキングや指標の高さと流入人口（特に、出産子育てに適した街として、ロサンゼルスやサンフランシスコ等、近郊の大都市から、結婚出産適齢期の若者移住流入が顕著で、出生率向上、平均年齢低下を実現）の増加を鑑みると、**魅力的なランキングや指標が、ブランディングを確立し、他地区との優位性を明確にし、流入人口の増加に繋がることは間違いなく、高知県でも、県民の自然に対する意識向上を図り、環境活動を行っていくと同時に、自県の持つ魅力を全て認識し最大限 PR できるよう、相乗効果を意識した取り組みを行っていく必要があると考えます。**

事例調査 2 国内外の環境まちづくり事例

提言を作成するにあたり、ポートランド視察結果を参考に、「地域住民が主体となって活動していること」「特徴的な都市政策を実行していること」を念頭に国内外の環境まちづくりの取り組み事例を調査し、その傾向を分析することで提言策定の参考としました。

2-1. 国内の先進事例

①商店街発の地域協働による環境まちづくり

『チームアゼリアプロジェクト（京都府長岡京市）』

街路灯の維持管理が課題となるなか、LED を自主制作し、区域 84 基全ての街路灯を交換。LED 制作は小学校の環境教育に組み込まれ、環境教育にも繋がっている。



（写真 15：LED を交換する小学生）

②人の生活に起因する CO2 の削減と低炭素社会を目指しオールつくばで取り組む

『つくば環境スタイルサポーターズ（茨城県つくば市）』

つくば市環境都市推進課が提案するエコプログラムに参加することでポイントを貯めることができ、貯めたポイントはエコグッズに交換できる。個人会員と事業所会員を募集しており、現在個人会員は 5,000 人、事業所会員は 200 人を超えている。

平成26年度の実施予定プログラム

100ポイント	200ポイント
サポーターズの集い【6月25日】	グリーンカーテンコンテストへの参加
筑波山自然環境教育事業【年5回実施】	エコ通勤ウィークへの参加【年2回実施】
会員限定エコクッキング【年2回実施】	電力見える化実験への参加
次世代エネルギーパーク巡り【年2回実施】	600ポイント
小野川探検隊・桜川探検隊【夏休み期間中】	個人用太陽光発電データ提供 【平成26年4月以降の発電量1年分のデータを提供】
エコプロダクツ展見学会【12月】	
20ポイント	
つくばフェスティバル【5月】、まつりつくば【8月】、サイエンスコラボ【11月】でのサポーターズサロンにてイベント参加	その他、ポイント対象プログラムをご用意し、随時お知らせいたします。

（写真 16：平成 26 年度実施のポイントプログラム一覧）

③地域のニーズに即した環境まちづくり

『エココミュニティ会議（兵庫県西宮市）』

地域住民が主体となり、環境を切り口に地域の課題を解決するための組織を結成。市職員や地域内事業者も参加することにより、地域に根ざした活動を行っている。



（写真 17：今津浜水泳場の清掃）

④移動に焦点を当てた環境活動

『観光地におけるカーボンオフセットパーキング（茨城県高萩市）』

駐車場料金 500 円の内 100 円分を自然エネルギー発電施設に支払うことでドライブ中に排出した CO2 の一部をオフセットする取り組みを実施。

1,235,300 円を自然エネルギー発電施設に支払い、約 39 トン（サッカーボール 390 万個分）の CO2 の削減に繋がった。



（写真 18：花貫溪谷の駐車場）

⑤食に視点を当て、イベント時に出るゴミを減らす環境活動

『リユース食器貸し出し事業（栃木県高根沢町）』

イベント時に出る使い捨て食器のゴミに目をつけ、リユース食器を無料で貸し出すことでゴミの排出量が減少し、更にその場で食器洗浄できるユニットを地元商工会が制作し、今後も継続できる仕組みを用意。料理を提供する側は食器代や紛失等のリスクなく、環境活動に取り組むことが出来た



（写真 19：軽トラに掲載したユニット）

⑥自転車と公共交通を軸としたコンパクトシティづくり

『自転車市民共同利用システム（シクロシティ）導入事業（富山県富山市）』

民間事業者が主体となり、行政支援のもと、中心市街地の歩道上に自転車シェアリングが可能なシステムを整備。平成 22 年度の供用開始以来、平成 24 年 3 月末現在で 1,602 人となっている。また平成 25 年 3 月末には累計利用回数が 12 万 5 千回を超え、市の中心部を走るセントラム（路面電車）などの利用と合わせ、更なる利用者・利用回数の拡大を計っている。



（写真 20：中心部を走る LRT とシクロシティ）

2-2. 海外の先進事例

①公共交通と自転車に特化した環境まちづくり

『フライブルク市（ドイツ）』

都市計画で中心部をトランジットモール化し、17ある公共交通を1枚の定期券で利用できる利用促進サービスを実施した。自転車のためのインフラ整備、市内駐輪場の整備（9,000台）、幹線道路と生活道路の分離（住宅地の生活道路は制限速度30km/h）等の結果、1992年NP0ドイツ環境支援協会主催の「環境首都コンテスト」において最高点を獲得し一躍「環境首都フライブルク」として有名となった。



（写真 21：フライブルクを走る路面電車）

②市民生活の一部となったレンタサイクル、ヴェリブ

『レンタサイクル「ヴェリブ」（フランス パリ）』

パリ市とその周辺に貸出及び返却スポットを1,700ヶ所以上設置し、23,000台の自転車を運用している。システム運用は大手広告代理店のジェーシーデュコーで、パリ市内で優先的に広告パネルを設置できる権利と引き替えに、システム運営にかかる経費を負担している。パリ市内の自転車利用が2001年との比較でほぼ倍増。これに伴い自動車の利用が同じく2001年比で約2割減少した。またステーションに修理等を行う巡回スタッフを配置することによりパリ市内では新たに400人の雇用が生まれた。



（上：写真 22：パリ市内のヴェリブ）

（下：写真 23：パリ市民に親しまれている）

③ハード・ソフト両面からの自転車利用促進

『コペンハーゲン（デンマーク）』

毎年1,000～2,000万米ドル（約12.2～24.4億円、1ドル122円）を自転車専用道路などの基盤整備に投資。更に自転車同盟という非政府組織が1905年に設立され政府からの助成金を元に自転車のインフラ整備と利用促進キャンペーンを実施。コペンハーゲンの住民が自転車を利用する理由として、「環境に良いから」は1%と低く、「簡単、容易で速い」54%、「健康に良い」19%、「便利」7%、「安い」6%と、合理的かつ実利的なものが多く、自転車利用が合理的かつ実利的であると判断できるソフト・ハードの環境整備が重要であることが分かる。



（写真 24：自転車専用道を走る自転車）

④リーダー主導の自転車・歩行者に優しいまちづくり

『フローニンゲン（オランダ）』

マックス・ファン・デン・ベルグが市の交通責任者となり「街をリビングルームに変えよう！」という運動を立ち上げ、1970年代から自転車走行空間の整備がすすめられた。当初は商店街の大反対にあったが、実際は売上が20%増加。その後50年かけ自転車中心の街を整備してきた。現在では人口19万人に対し自転車保有台数が30万台と、1人当たり1.57台の自転車を保有する街となった。



（写真 25：中心部に自動車は見られない）

2-3. 事例の分析結果

国内事例については、イベント型で一部の市民のみが参加しており、活動の効果は限定的で、予算や経済活動とのリンクも少なく経営的自立ができていない事例が多く見られました。更に、行政主導で活動の規模が小さく、活動の結果が社会に与えるインパクトも小さい傾向にあります。

一方、海外事例はリーダー主導で街づくりのビジョンに直結した大規模な事業であり、活動の効果は大きいですが、それに伴う費用又は法整備等の政治的インパクトも大きくなっています。また、経済活動とリンクすることにより、事業効果の増大（観光、省エネ）やランニングコストの捻出といった経済的自立もできています。結果、ライフスタイルの変革や環境指標の大きな改善に繋がり、ライフスタイル型環境活動として多くの市民の日常生活の一部となっています。

以上のことから、**住民の誰もが参加出来るライフスタイル型の環境活動で、経済活動とリンクすることが継続的環境型まちづくりの実現に繋がる**と考えます。

事例よりも分かるように、**活動を実施・継続することで住民のライフスタイルの変革に繋がり、更なる魅力的な指標が生まれ、そのことを効果的にアピールすることで、結果として住民の幸福度の向上や、移住人口・企業誘致の増加にも繋がる**と考えます。

〈出典一覧〉

写真 1：えひめ笑顔名刺

出典：愛媛県

写真 2：大川市を知る 10 箇条

出典：ANA グループ機内誌「翼の王国」2015 年

12 月号より

写真 3：ベロタクシー岩手

出典：IBC 岩手放送

写真 4：ベロタクシー尾張旭

出典：ベロタクシー尾張旭

写真 5：女性向けライドイベントでの集合写真

出典：サイクリスト

写真 6：小型三輪 EV「Meguru」

出典：株式会社淀川製作所

写真 7：写真 25：1 人乗り超小型 EV「MicroAERO

出典：Tech Village

写真 8：沖縄国際通り商店街

出典：沖縄観光チャンネル

写真 9：プロ選手と一緒にパレード

出典：OITA サイクルフェス!!!事務局フェイスブッ
ク

写真 10：2014 年開催の様子

出典：OITA サイクルフェス!!!事務局フェイスブッ
ク

写真 11：ポートランドの地図

出典：土佐経済同友会資料より

写真 12：ポートランド市の風景

出典：土佐経済同友会資料より

写真 13：ポートランドのまちづくり～食・住・遊の
融合～

出典：土佐経済同友会資料より

写真 14：緑の街づくり

出典：土佐経済同友会資料より

写真 15：LED を交換する小学生

出典：長岡中央商店街

写真 16：平成 26 年度実施のポイントプログラム一
覧

出典：つくば市つくば環境スタイルサポーターズ

写真 17：今津浜水泳場の清掃

出典：西宮市 2012 年度エココミュニティ会議活動
報告書

写真 18：花貫溪谷の駐車場

出典：花の詩山の詩

写真 19：軽トラに掲載した食器洗浄ユニット

出典：リユース食器ネットワーク

写真 20：富山市中心部を走る LRT とシクロシティ

出典：コミュニティバイクブログ

写真 21：フライブルクを走る路面電車

出典：海外 LRT ニュースひろい読み

写真 22：パリ市内のヴェリブ

出典：パリナビ

写真 23：パリ市民に親しまれている

出典：パリナビ

写真 24：自転車専用道を走る自転車

出典：自力旅 旅のお供はカメラと GPS

写真 25：中心部に自転車は見られない

出典：スローモビリティライフプロジェクト

表 1：高知県のランキング一覧

出典：筆者作成

表 2：ランキングで見るポートランド

出典：土佐経済同友会資料より

表 3：ポートランドと他都市の比較

出典：筆者作成

図 1：提言イメージ図

出典：筆者作成

＜参考資料＞

・自然と共に経済発展する街

「日経メッセ」（2015 年 12 月 17 日アクセス）

環境問題委員会 委員名簿

委員長 高野一郎

副委員長 熊野 裕二、西原 敬三郎、西山 正晃、溝渕 基浩

書記 岩田 和久、岡村 岳尚、谷脇 匡晃、濱田 直隆、三谷 剛平、森本 道義、

委員 荒川 浩一、有馬 義雄、五十嵐 武、泉田 優、大石 宗、小川 雅弘、尾立 孝行、
國澤 裕貴、柴田 政美、仙道 桂一、竹内 こうじ、立田 雅弘、友田 由美、永野 敬典、
野田 康清、野村 栄一、林 義雄、日和崎 二郎、藤島 和典、細木 秀美、宮地 貴嗣、
矢野 富夫、矢野 義尚、吉門 文恵、吉村 文次、安藤 保彦、井上 哲郎、中嶋 重光

平成 26～28 年 環境問題委員会 主要活動内容

- 平成 25 年 12 月 3 日 9 名 正副予定者会
- 平成 26 年 2 月 13 日 17 名 委員会活動予定説明会・委員会顔合
- 平成 26 年 3 月 11 日 21 名 高知県の太陽光発電 現状と課題
- 平成 26 年 4 月 25 日 49 名 我が国のメタンハイドレート開発について
- 平成 26 年 5 月 13 日 23 名 エネルギーと日本の課題
- 平成 26 年 6 月 13～14 日 11 名 四国電力株式会社 伊方発電所視察 愛媛経済同友会交流会
- 平成 26 年 7 月 8 日 17 名 「燃料電池自動車へのトヨタの取り組み」「高知県の未利用植物資源を利用したヘルスケア・ビューティケア素材開発」
- 平成 26 年 9 月 9 日 12 名 太陽光施設視察
- 平成 26 年 10 月 14 日 22 名 NTT グループの環境問題への取り組み
- 平成 26 年 11 月 21～24 日 10 名 代表幹事とタイ王国視察（再生エネルギー施設・高知からの進出企業等）
- 平成 26 年 12 月 9 日 27 名 2014 年度活動報告会・新年度方針案予定協議

- 平成 27 年 1 月 14 日 11 名 正副予定者会
- 平成 27 年 2 月 10 日 38 名 再生エネルギー政策の今後
- 平成 27 年 3 月 19 日 45 名 地球の大切さを考える～JAL の環境への取り組み～
- 平成 27 年 4 月 14 日 49 名 東京ディズニーランドの環境対策と危機管理
- 平成 27 年 5 月 12 日 27 名 風力発電の現状と今後の展望、洋上風力発電の動向
- 平成 27 年 6 月 12～13 日 12 名 大分県別府市 西日本地熱発電株式会社 視察
- 平成 27 年 7 月 14 日 32 名 JR 四国 環境保全への取り組み
- 平成 27 年 8 月 4 日 26 名 グリーンボランティア（清掃活動）
- 平成 27 年 9 月 10 日 47 名 未来を切り拓く経営者たち～企業の持続的成長を目指して～
- 平成 27 年 9 月 16～21 日 11 名 代表幹事とオレゴン州ポートランド視察～ロサンゼルス視察・県人会交流会～
- 平成 27 年 11 月 12 日 250 名 オープン定例会：「オレゴン州ポートランドに学ぶ」
- 平成 27 年 12 月 25 日 29 名 2015 年度活動報告会・新年度方針案予定協議

本件に関する問合せ先

土佐経済同友会 事務局

〒780-0823

高知市菜園場町 1-21 四国総合ビル 3F

(株)四銀地域経済研究所 内

TEL : 088-885-6707 FAX : 088-883-1156

メール・アドレス : tosadoyu@orange.ocn.ne.jp

インターネット・ホームページ :

<http://www.tosadoyukai.com/>

